

IKUKYU.PJT

全国47都道府県の男女9,400人に聞く
男性の育休実態調査



男性育休白書 2021

発表！男性の家事・育児力が高い全国ランキング
1位「沖縄県」 2位「鳥取県」 3位「奈良県」


SEKISUI HOUSE

日本でも男性の育児休業取得が 当たり前になる社会へ

積水ハウスグループは
「男性社員1カ月以上の育児休業完全取得」を
推進しています。

「わが家」を世界一 幸せな場所にする

住まいを通じた幸せを提案する
住宅メーカーとして
人間性豊かな住まいと環境づくりを
進めていきます。

積水ハウス株式会社は、子育てを応援する社会を先導する「キッズ・ファースト企業」として、ダイバーシティ推進の取り組みを一層加速させるため、2018年9月より「男性社員1カ月以上の育児休業（育休）完全取得」（特別育児休業制度）を推進しています。積水ハウスは、男性の育休取得をよりよい社会づくりのきっかけとしたい、との思いから、9月19日を「育休を考える日」と記念日に制定し、2019年から企業で働く男性の育休取得実態を探る「イクメン白書」を発表してきました。

3回目となる今回は、2021年6月に「育児・介護休業法」が改正され、2022年4月から男性の育休取得がより一層積極的に推進されることから、男性の育休取得についてより深く探るべく、タイトルも「男性育休白書」と改めました。各都道府県別の小学生以下の子どもを持つ20～50代の男女9,400人を対象に、パートナーの男性の育休に関する実態調査を行いました。また、2019年に行った調査結果と比較し、コロナ禍前との変化も調査しました。

*本資料では育児休業のことを育休と表記しています。

CONTENTS

- P.02 「男性育休白書 2021」のコンセプト
- P.03 「男性育休白書 2021」の概要
- P.04 1. 発表！「男性の家事・育児力」全国ランキング 2021
- P.07 2. 「男性の家事・育児力」全国ランキング 指標別5項目
- P.12 3. 男性の育休取得の実態
- P.15 COLUMN ジャーナリスト/東工大准教授 治部れんげさん
- P.16 4. 男性の家事・育児意識の実態
- P.18 5. 育休を取得した男性の声と、女性の声
- P.20 6. 男性の育休取得推進に必要なこと
- P.21 7. 男性の家事・育児と幸福度
- P.22 8. 男性の家事・育児とコロナ禍の影響
- P.23 9. 自治体や勤務先の育児支援の認知と利用実態
- P.26 10. 積水ハウス社員の「男性育休白書 2021」

調査概要

- 実施時期 2021年6月11日～6月21日
- 調査手法 インターネット調査
- 調査対象 全国47都道府県別に、配偶者および小学生以下の子どもと同居する
20～50代の男女各200人 計9,400人 人口動態に基づきウエイトバック集計

(男性の家事・育児力ランキングについては人口動態+12歳未満のお子さまとの同居率もウエイトバック値に加味しています)
*本調査に記載の数値は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

1. 発表! 「男性の家事・育児力」 全国ランキング 2021

積水ハウスが独自設定した 「男性の家事・育児力」を決める4つの指標

積水ハウスでは、右記の4つを「男性の家事・育児力」の指標として設定しました。1つ目は「女性の評価」で、男性が行っている家事・育児の数と、男性が子育てを楽しみ、家事や育児に積極的に関与すると思うかどうかを4段階評価しています。2つ目は男性の「育休取得経験」で、育休取得日数が基準となります。3つ目は男性の「家事・育児時間」で、男性の自己申告ではなく女性から見た男性の家事・育児時間を基準とします。4つめは男性の「家事・育児参加による幸福感」で、男性本人に家事・育児に参加して幸せを感じているかどうかを4段階で聞きました。

これら4指標5項目をそれぞれ数値化し47都道府県別にランキングし、1位：47点～47位：1点を付与し、各項目の点数を足し上げることで、都道府県別の家事・育児力を算出しました。

「男性の家事・育児力」の 基準となる 4つの指標

1 女性(妻)の 評価 (2項目)	2 育休 取得経験
3 家事・育児 時間 女性(妻)の評価	4 家事・育児 参加による 幸福感

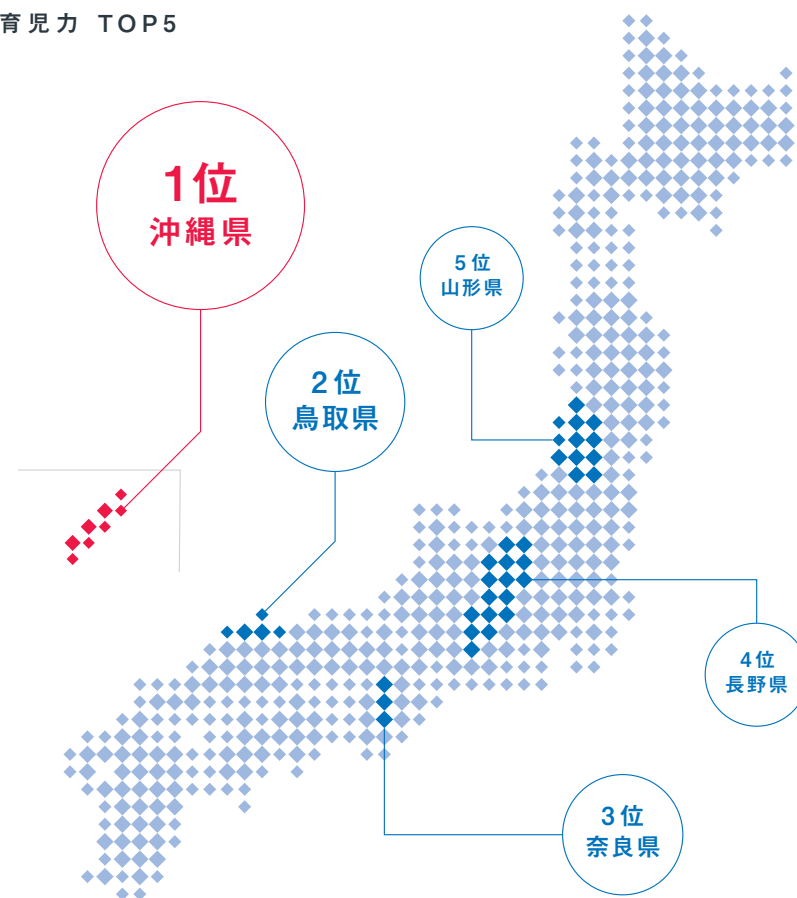
男性の家事・育児力ランキング

1位「沖縄県」 2位「鳥取県」 3位「奈良県」

男性の家事・育児力調査を都道府県別にランキングした結果、全国1位は「沖縄県」(216点)、2位「鳥取県」(192点)、3位「奈良県」(186点)となりました。

1	沖縄県	第1位	216点	2	鳥取県	第2位	192点	3	奈良県	第3位	186点
	男性が行う家事・育児の数	8位	7.0個		男性が行う家事・育児の数	3位	7.7個		男性が行う家事・育児の数	16位	6.7個
	男性の家事・育児関与度	3位	0.63		男性の家事・育児関与度	6位	0.59		男性の家事・育児関与度	4位	0.61
	育休取得日数	10位	4.9日		育休取得日数	8位	5.3日		育休取得日数	1位	11.3日
	男性の家事・育児時間	1位	17.1時間/週		男性の家事・育児時間	9位	15.4時間/週		男性の家事・育児時間	5位	16.0時間/週
	家事・育児幸福度	2位	1.15		家事・育児幸福度	22位	0.92		家事・育児幸福度	28位	0.91

男性の家事・育児力 TOP5



沖縄県 玉城知事よりコメント

はいさい。沖縄県知事の玉城デニーです。

沖縄県が、男性の家事・育児力ランキングで全国1位に輝いたことを、大変嬉しく思います。

家事・育児力を決める4つの指標の中でも、男性の「家事・育児時間」が長いという結果については、沖縄県は子どもの数が多いことや、子育てしながら働く女性が多いことから、男性が家事・育児に関わる時間が長いのは、必然とも言えるかもしれません。また、特に素晴らしいところは、男性自身の家事・育児への幸福度が高いという点ではないかと思います。

私も4人の子どもがおりますが、第3子、第4子が生まれた頃に子育てを分担し、その大変さと楽しさを実感できました。4人はすでに成人し、うち2人は結婚、子どもの誕生に恵まれ、夫婦互いに協力して仕事と子育てに頑張っています。

これからも、男女の支え合いで家庭や社会の幸福度を高めていけるよう、沖縄県として推進してまいります。

まじゅん ちばてい いちゃびらなやーさい! (一緒に頑張っていきましょう)



沖縄県 玉城知事



「男性の家事・育児力」都道府県別 一覧

都道府県	男性が行う家事・育児の数		男性の家事・育児関与度		育児取得日数		男性の家事・育児時間		家事・育児幸福度		総合スコア	
	チェック数(個)	順位	ウエイト平均	順位	平均日数	順位	平均時間	順位	ウエイト平均	順位	総合点	ランキング
1 北海道	5.6	41	0.41	25	1.6	41	11.8	39	0.94	19	75	41位
2 青森県	6.6	17	0.09	46	0.5	47	14.3	17	0.71	45	68	42位
3 岩手県	8.2	1	0.72	1	2.2	33	15.6	8	0.82	37	160	6位
4 宮城県	6.4	23	0.41	24	3.0	22	13.8	22	0.82	40	109	29位
5 秋田県	6.1	32	0.07	47	2.4	30	13.8	21	0.73	42	68	42位
6 山形県	6.7	14	0.61	5	2.9	23	14.4	16	0.97	17	165	5位
7 福島県	6.3	28	0.40	26	5.5	6	14.9	11	0.91	25	144	12位
8 茨城県	5.7	39	0.40	27	2.5	29	15.9	6	0.73	43	96	35位
9 栃木県	6.3	29	0.45	17	4.3	14	12.8	31	1.00	8	141	15位
10 群馬県	6.2	31	0.20	43	4.0	17	13.7	24	0.84	34	91	38位
11 埼玉県	5.7	40	0.45	18	6.5	3	12.6	35	0.84	35	109	29位
12 千葉県	6.5	21	0.47	15	5.4	7	12.8	32	0.91	27	138	17位
13 東京都	7.1	7	0.26	41	2.1	36	14.2	18	0.98	12	126	20位
14 神奈川県	6.4	24	0.42	22	4.3	15	11.7	40	0.98	13	126	20位
15 新潟県	7.6	4	0.38	29	6.0	4	13.1	29	0.88	30	144	12位
16 富山県	6.5	20	0.49	12	2.7	26	15.4	10	0.82	38	134	19位
17 石川県	6.7	15	0.19	44	2.6	27	12.6	34	1.04	4	116	24位
18 福井県	7.4	6	0.52	10	1.7	39	16.7	2	0.70	46	137	18位
19 山梨県	6.9	10	0.36	31	1.2	44	16.0	4	1.15	3	148	11位
20 長野県	6.8	12	0.69	2	7.8	2	14.7	13	0.91	26	185	4位
21 岐阜県	5.8	35	0.20	42	4.7	12	10.9	45	0.82	39	67	44位
22 静岡県	6.3	26	0.55	7	2.1	35	14.5	15	0.82	41	116	24位
23 愛知県	6.8	11	0.44	20	1.0	45	13.5	28	0.89	29	107	31位
24 三重県	5.2	45	0.32	35	1.9	38	10.9	44	0.49	47	31	47位
25 滋賀県	6.7	13	0.31	36	2.0	37	12.4	36	0.83	36	82	40位
26 京都府	6.3	25	0.29	39	4.4	13	10.5	46	1.01	7	110	28位
27 大阪府	5.8	36	0.26	40	5.2	9	12.2	37	0.97	16	102	33位
28 兵庫県	5.8	37	0.48	13	2.9	25	12.6	33	0.99	9	123	23位
29 奈良県	6.7	16	0.61	4	11.3	1	16.0	5	0.91	28	186	3位
30 和歌山県	6.0	34	0.36	33	1.2	43	14.6	14	0.93	21	95	36位
31 鳥取県	7.7	3	0.59	6	5.3	8	15.4	9	0.92	22	192	2位
32 島根県	8.1	2	0.47	16	2.4	31	14.1	19	0.97	15	157	8位
33 岡山県	6.9	9	0.48	14	1.3	42	11.6	41	0.85	32	102	33位
34 広島県	5.2	46	0.30	38	2.3	32	12.9	30	0.71	44	50	45位
35 山口県	5.2	47	0.37	30	1.7	40	10.2	47	0.85	33	43	46位
36 徳島県	5.4	44	0.51	11	4.7	11	13.6	26	1.03	5	143	14位
37 香川県	5.8	38	0.42	23	3.8	19	11.4	43	0.91	23	94	37位
38 愛媛県	6.3	27	0.45	19	3.3	20	15.7	7	0.99	11	156	9位
39 高知県	7.4	5	0.31	37	3.8	18	14.8	12	0.97	14	154	10位
40 福岡県	5.6	42	0.16	45	5.9	5	11.6	42	1.16	1	105	32位
41 佐賀県	6.1	33	0.36	32	4.2	16	12.1	38	0.99	10	111	27位
42 長崎県	6.4	22	0.43	21	2.9	24	16.5	3	0.87	31	139	16位
43 熊本県	6.5	18	0.40	28	3.2	21	13.6	25	0.91	24	124	22位
44 大分県	6.5	19	0.55	8	2.6	28	13.9	20	1.02	6	159	7位
45 宮崎県	5.5	43	0.53	9	2.2	34	13.8	23	0.96	18	113	26位
46 鹿児島県	6.2	30	0.33	34	0.8	46	13.6	27	0.93	20	83	39位
47 沖縄県	7.0	8	0.63	3	4.9	10	17.1	1	1.15	2	216	1位
全国平均	6.4		0.4		3.4		13.6		0.9			

*ウエイト平均とは：選択肢ごとに、回答の重みづけを行った集計方法を表しています。(あてはまる+2p、ややあてはまる+1p等)

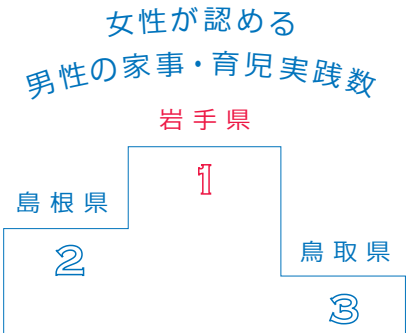
2. 「男性の家事・育児力」全国ランキング 指標別5項目

指標 1-1 女性が認める男性の家事・育児実践数 1位は「岩手県」

男性の家事・育児力の1つ目の指標の1は、女性が認める男性が行う家事・育児の実践数です。

食事作りやゴミ出し、掃除や洗濯、子どもと遊ぶなど28項目を挙げ、男性が普段行っているものを選んでもらいました。その結果、男性の家事・育児の実践数が多いのは、「岩手県」(8.2個)、「島根県」(8.1個)、「鳥取県」(7.7個)の順となりました。全国平均は6.3個でした[図2-1]。

*小数点3位以下で差が生じています。



[図2-1] 女性が評価する、男性の家事・育児の実践数

対象は女性(n=5,028)

順位	都道府県	実践数(個)	順位	都道府県	実践数(個)	順位	都道府県	実践数(個)	順位	都道府県	実践数(個)
1位	岩手県	8.2個	13位	滋賀県	6.7個	25位	京都府	6.3個	37位	兵庫県	5.8個
2位	島根県	8.1個	14位	山形県	6.7個	26位	静岡県	6.3個	38位	香川県	5.8個
3位	鳥取県	7.7個	15位	石川県	6.7個	27位	愛媛県	6.3個	39位	茨城県	5.7個
4位	新潟県	7.6個	16位	奈良県	6.7個	28位	福島県	6.3個	40位	埼玉県	5.7個
5位	高知県	7.4個	17位	青森県	6.6個	29位	栃木県	6.3個	41位	北海道	5.6個
6位	福井県	7.4個	18位	熊本県	6.5個	30位	鹿児島県	6.2個	42位	福岡県	5.6個
7位	東京都	7.1個	19位	大分県	6.5個	31位	群馬県	6.2個	43位	宮崎県	5.5個
8位	沖縄県	7.0個	20位	富山県	6.5個	32位	秋田県	6.1個	44位	徳島県	5.4個
9位	岡山県	6.9個	21位	千葉県	6.5個	33位	佐賀県	6.1個	45位	三重県	5.2個
10位	山梨県	6.9個	22位	長崎県	6.4個	34位	和歌山県	6.0個	46位	広島県	5.2個
11位	愛知県	6.8個	23位	宮城県	6.4個	35位	岐阜県	5.8個	47位	山口県	5.2個
12位	長野県	6.8個	24位	神奈川県	6.4個	36位	大阪府	5.8個		全国平均	6.3個

*小数点3位以下で差が生じています。

指標 1-2 女性が認める男性の家事・育児関与度 1位は「岩手県」

男性の家事・育児力の1つ目の指標の2は、男性が子育てを楽しみ、家事や育児に積極的に関与すると思うかどうかを女性に聞くもので、「とてもそう思う(+2.00)」「ややそう思う(+1.00)」「あまりそう思わない(-1.00)」「まったくそう思わない(-2.00)」の4段階で評価してもらいました。

その結果、男性が楽しみながら家事・育児に積極的に関与するのは、「岩手県」(0.72)、「長野県」(0.69)、「沖縄県」(0.63)の順となりました。岩手県は指標1-1家事・育児の実践数でもトップでしたが、同じ東北圏でも男性の家事・育児関与度は大きく違うようです[図2-2]。

*小数点3位以下で差が生じています。

[図2-2] 女性が評価する、男性が子育てを楽しみ 家事・育児に積極的に関与する度合い(男性の家事・育児関与度)

対象は女性(n=5,028)

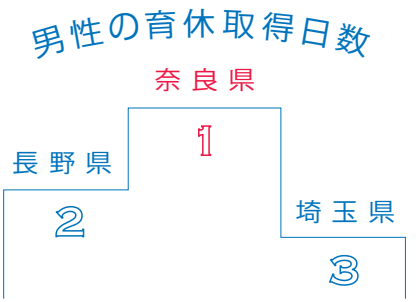
順位	県	男性の家事・育児力	順位	県	男性の家事・育児力	順位	県	男性の家事・育児力	順位	県	男性の家事・育児力
1位	岩手県	0.72	13位	兵庫県	0.48	25位	北海道	0.41	37位	高知県	0.31
2位	長野県	0.69	14位	岡山県	0.48	26位	福島県	0.40	38位	広島県	0.30
3位	沖縄県	0.63	15位	千葉県	0.47	27位	茨城県	0.40	39位	京都府	0.29
4位	奈良県	0.61	16位	島根県	0.47	28位	熊本県	0.40	40位	大阪府	0.26
5位	山形県	0.61	17位	栃木県	0.45	29位	新潟県	0.38	41位	東京都	0.26
6位	鳥取県	0.59	18位	埼玉県	0.45	30位	山口県	0.37	42位	岐阜県	0.20
7位	静岡県	0.55	19位	愛媛県	0.45	31位	山梨県	0.36	43位	群馬県	0.20
8位	大分県	0.55	20位	愛知県	0.44	32位	佐賀県	0.36	44位	石川県	0.19
9位	宮崎県	0.53	21位	長崎県	0.43	33位	和歌山県	0.36	45位	福岡県	0.16
10位	福井県	0.52	22位	神奈川県	0.42	34位	鹿児島県	0.33	46位	青森県	0.09
11位	徳島県	0.51	23位	香川県	0.42	35位	三重県	0.32	47位	秋田県	0.07
12位	富山県	0.49	24位	宮城県	0.41	36位	滋賀県	0.31		全国平均	0.39

*小数点3位以下で差が生じています。

指標 2 男性の育休取得日数 1位は「奈良県」

男性の家事・育児力の2つ目の指標は、男性が取得した育休日数です。全国平均日数を算出したところ、育休取得日数が多いのは「奈良県」(11.3日)、「長野県」(7.8日)、「埼玉県」(6.5日)の順となり、全国平均 3.7日でした[図3]。

男性の育休制度において、日本は世界1位といわれていますが、実際に取得する日数はごくわずかで、せっかくの制度が生かされていない、というのが現状のようです。*小数点3位以下で差が生じています。



[図3] 男性の育休取得日数

対象は全体(n=9,400)

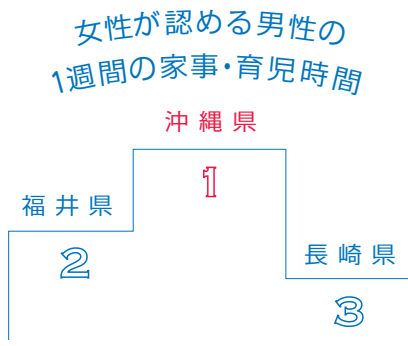
順位	県	平均日数(日)	順位	県	平均日数(日)	順位	県	平均日数(日)	順位	県	平均日数(日)
1位	奈良県	11.3日	13位	京都府	4.4日	25位	兵庫県	2.9日	37位	滋賀県	2.0日
2位	長野県	7.8日	14位	栃木県	4.3日	26位	富山県	2.7日	38位	三重県	1.9日
3位	埼玉県	6.5日	15位	神奈川県	4.3日	27位	石川県	2.6日	39位	福井県	1.7日
4位	新潟県	6.0日	16位	佐賀県	4.2日	28位	大分県	2.6日	40位	山口県	1.7日
5位	福岡県	5.9日	17位	群馬県	4.0日	29位	茨城県	2.5日	41位	北海道	1.6日
6位	福島県	5.5日	18位	高知県	3.8日	30位	秋田県	2.4日	42位	岡山県	1.3日
7位	千葉県	5.4日	19位	香川県	3.8日	31位	島根県	2.4日	43位	和歌山県	1.2日
8位	鳥取県	5.3日	20位	愛媛県	3.3日	32位	広島県	2.3日	44位	山梨県	1.2日
9位	大阪府	5.2日	21位	熊本県	3.2日	33位	岩手県	2.2日	45位	愛知県	1.0日
10位	沖縄県	4.9日	22位	宮城県	3.0日	34位	宮崎県	2.2日	46位	鹿児島県	0.8日
11位	徳島県	4.7日	23位	山形県	2.9日	35位	静岡県	2.1日	47位	青森県	0.5日
12位	岐阜県	4.7日	24位	長崎県	2.9日	36位	東京都	2.1日		全国平均	3.7日

*小数点3位以下で差が生じています。

指標 3 女性が認める男性の1週間の家事・育児時間
1位は「沖縄県」

男性の家事・育児力の3つ目の指標は、女性が認める男性の家事・育児時間です。勤務日と休日、それぞれの1日の家事・育児時間を聞き、1週間(勤務日5日+休日2日)の家事・育児時間を算出しました。

その結果、男性の1週間の家事・育児時間が長いのは、「沖縄県」(17.1時間)、「福井県」(16.7時間)、「長崎県」(16.5時間)の順となりました。全国平均は13.3時間でした[図4]。 *小数点3位以下で差が生じています。



[図4] 女性が認める男性の1週間の家事・育児時間
対象は女性(n=5,028)

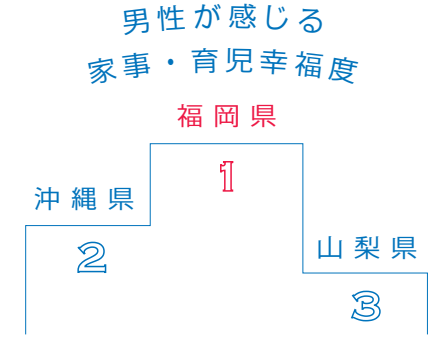
順位	県	男性の家事・育児力	順位	県	男性の家事・育児力	順位	県	男性の家事・育児力	順位	県	男性の家事・育児力
1	沖縄県	17.1	13	長野県	14.7	25	熊本県	13.6	37	大阪府	12.2
2	福井県	16.7	14	和歌山県	14.6	26	徳島県	13.6	38	佐賀県	12.1
3	長崎県	16.5	15	静岡県	14.5	27	鹿児島県	13.6	39	北海道	11.8
4	山梨県	16.0	16	山形県	14.4	28	愛知県	13.5	40	神奈川県	11.7
5	奈良県	16.0	17	青森県	14.3	29	新潟県	13.1	41	岡山県	11.6
6	茨城県	15.9	18	東京都	14.2	30	広島県	12.9	42	福岡県	11.6
7	愛媛県	15.7	19	鳥根県	14.1	31	栃木県	12.8	43	香川県	11.4
8	岩手県	15.6	20	大分県	13.9	32	千葉県	12.8	44	三重県	10.9
9	鳥取県	15.4	21	秋田県	13.8	33	兵庫県	12.6	45	岐阜県	10.9
10	富山県	15.4	22	宮城県	13.8	34	石川県	12.6	46	京都府	10.5
11	福島県	14.9	23	宮崎県	13.8	35	埼玉県	12.6	47	山口県	10.2
12	高知県	14.8	24	群馬県	13.7	36	滋賀県	12.4		全国平均	13.3

*小数点3位以下で差が生じています。

指標 4 男性自身が感じる家事・育児参加による幸福度
1位は「福岡県」

男性の家事・育児力の4つ目の指標は、男性自身が家事・育児を行うことに幸せを感じるか、家事・育児幸福度です。男性自身に4段階「幸せを感じている(+2.00)」「やや幸せを感じている(+1.00)」「あまり幸せを感じていない(-1.00)」「幸せを感じていない(-2.00)」で答えてもらいました。

その結果、家事・育児に幸せを感じる男性が多いのは、「福岡県」(1.16)、「沖縄県」(1.15)、「山梨県」(1.15)の順となりました[図5]。 *小数点3位以下で差が生じています。



[図5] 男性自身が感じる家事・育児幸福度
対象は男性(n=4,372)

順位	県	幸福度	順位	県	幸福度	順位	県	幸福度	順位	県	幸福度
1	福岡県	1.16	13	神奈川県	0.98	25	福島県	0.91	37	岩手県	0.82
2	沖縄県	1.15	14	高知県	0.97	26	長野県	0.91	38	富山県	0.82
3	山梨県	1.15	15	島根県	0.97	27	千葉県	0.91	39	岐阜県	0.82
4	石川県	1.04	16	大阪府	0.97	28	奈良県	0.91	40	宮城県	0.82
5	徳島県	1.03	17	山形県	0.97	29	愛知県	0.89	41	静岡県	0.82
6	大分県	1.02	18	宮崎県	0.96	30	新潟県	0.88	42	秋田県	0.73
7	京都府	1.01	19	北海道	0.94	31	長崎県	0.87	43	茨城県	0.73
8	栃木県	1.00	20	鹿児島県	0.93	32	岡山県	0.85	44	広島県	0.71
9	兵庫県	0.99	21	和歌山県	0.93	33	山口県	0.85	45	青森県	0.71
10	佐賀県	0.99	22	鳥取県	0.92	34	群馬県	0.84	46	福井県	0.70
11	愛媛県	0.99	23	香川県	0.91	35	埼玉県	0.84	47	三重県	0.49
12	東京都	0.98	24	熊本県	0.91	36	滋賀県	0.83		全国平均	0.92

*小数点3位以下で差が生じています。

3. 男性の育休取得の実態

男性の育休取得率は12.2%

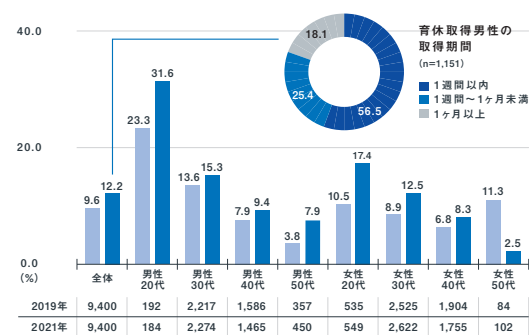
20代では3割が取得

若い世代が男性育休の推進役に

育休を取得した男性は全体の12.2%で2019年(9.6%)より増えています。とはいえ、取得日数は「1週間以内」(全体の6.9%、取得者の56.5%)が半数を占め、「1カ月以上」取得したのは全体の2.2%、取得した人の中でも2割もいません。一方、20代男性は31.6%が取得しており、2019年(23.3%)と比べて8.3ポイント増えています[図6]。

若い世代が、男性の育休取得推進の原動力となることが期待できそうです。

[図6] 男性の育休休業取得率
男性は自分自身、女性は男性の育休取得について回答



男性の育休取得に「賛成」87.1%

全世代が賛成にシフト

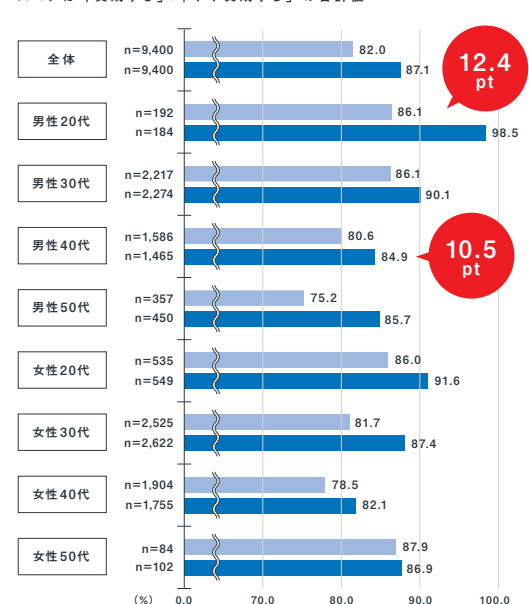
男性の育休取得に対する、世論にも変化の兆し

男性の育休取得に賛成かどうか聞きました。育児・介護休業法が改正され、2022年4月より施行されますが、今後より一層男性の育休取得が推進されるこのタイミングで、先んじて「男性育休白書 2021 特別編」を発表しています。

その特別編では未婚者も含む全体の88.1%が賛成していましたが、今回、子どもを持つ人に改めて聞くと、全体の87.1%が「賛成」と答え、20代男性では98.5%とほぼ全員が賛成しています。2019年と比較すると、全体的に高くなっていますが、20代男性だけでなく、50代男性の賛成意見も伸長しています[図7]。

2年前は男性の育休取得に懐疑的だった世代が賛成にシフトしていることから、世論や風潮も男性の育休取得の後押しとなりそうです。

[図7] 男性の育休取得に賛成
スコアは「賛成する」+「やや賛成する」の合計値

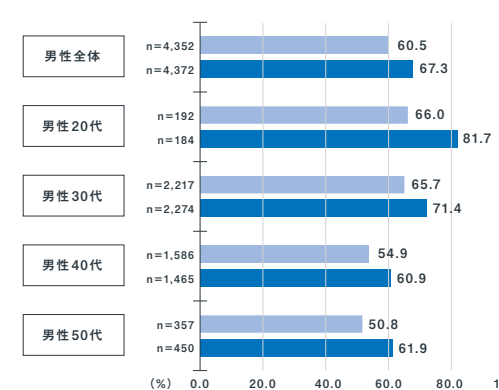


男性の育休取得、男性も女性も取得意向が高まる

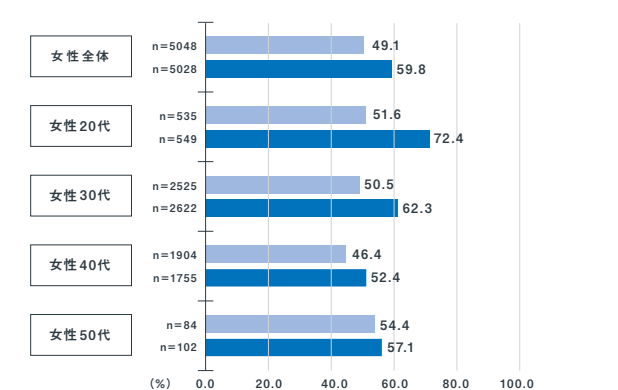
「男性育休白書 2021 特別編」でも聞いた男性の育休取得意向を、子どもを持つ男女に聞いてみました。今後育休を取得したい男性は67.3%で2019年より6.8ポイント高くなっています。20代は81.7%と高く、2019年から15.7ポイントも増えています[図8-1]。

また、パートナーの男性に育休を取得してほしいと答えた女性は59.8%で、2019年より10.7ポイント高くなっています。やはり20代が高く72.4%が男性に取得してほしいと望み、19年に比べ20.8ポイントも高くなっています[図8-2]。

[図8-1] 今後、育休を取得したい男性
スコアは「取得したい」+「やや取得したい」の合計値

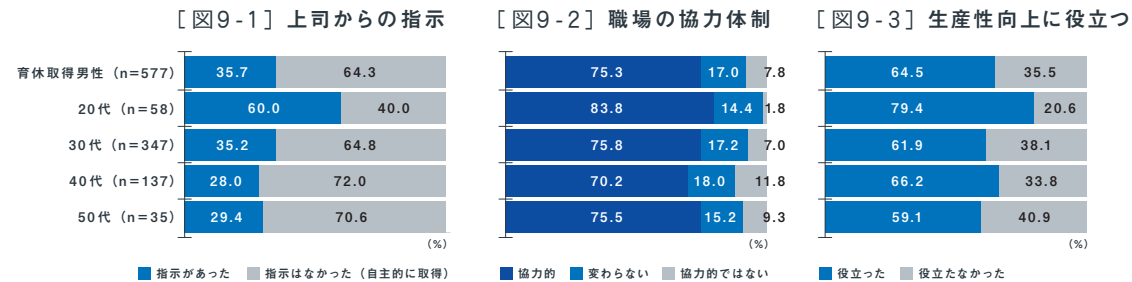


[図8-2] パートナーの男性に育休を取ってほしい女性
スコアは男性に「取得してほしい」+「やや取得してほしい」の合計値



20代男性は、上司からの指示や 職場の協力体制が育休取得の後押しに 育休取得後は生産性の向上を8割が実感

育休を取得した男性に、会社からの育休取得の指示の有無を聞くと、35.7%が「指示があった」と答え、20代男性は60.0%と高くなっています[図9-1]。育休時の職場の協力体制は75.3%が「協力的」と答え、20代男性は83.8%とさらに高くなっています[図9-2]。このような好環境の影響からか、育休取得は仕事の生産性向上に役立ったかと聞くと、全体では64.5%が「役立った」と答え、20代男性は8割が「役立った」(79.4%)とより強く実感しています[図9-3]。



子ども支援政策や男性の家庭参加の専門家
治部れんげさんに聞く

「男性育休白書2021」から 見えてきた 若い世代の意識変化

ジャーナリスト/東工大准教授 治部れんげさん

今回の調査で私が最も関心を引かれたのは、世代別の分析でした。

年齢が若いほど、男性育休に対してポジティブであることがよく分かります。育休を取得したい男性は20代で81%を超えており、夫に育休を取ってほしい女性は72%を超えました。2年前と比べて男女ともに15~20ポイントも増加しており、40代~50代男女と比べて大きな差があります。

積水ハウスの仲井嘉浩社長は、男性育休1カ月以上の完全取得導入を決めた理由として、若い世代の意識を挙げていました。部下や後輩男性が家事や育児に参加することを当然と考えていることを理解していたからこそ、企業の制度を通じて、彼らの希望を実現したいと思ったのでしょう。

こうした発想には、共感を覚えます。今年4月から、私は理工系の国立大学で文系教養科目を教えています。約85%の学生が男子であるため、折に触れて男性にとってのワークライフ・バランスや男性育休について伝えています。

実際、子どもが好きなので、自分も将来育休を取り、家庭生活にコミットしたい、という学生は男女ともにいます。また、実際に育休を取得した30代男性にゲスト講師として来ていただいたところ、男性の家庭参加と日本の社会課題の連続性を理解して、触発された学生が多くいました。中には、就職先を選ぶため、男性育休の取得率が高い企業を調べてみた、という人もいます。

若い世代にとって、性別で役割を決めるのではなく、個人の希望や能力に沿って働きながら家族形成をするのが当たり前になっています。授業の中で積水ハウスを始めとする、男性育休を推進している企業について話すと、高い関心が寄せられました。

経営者や管理職の方には、特にこの「男性育休白書2021」のP21をよくご覧いただき、若い世代が望む働き方、ライフスタイルを理解していただきたいと思います。男性育休を通じて彼らのワークライフ・バランスを支援することは、優秀な人材の獲得や定着、彼らにやる気を持って働き続けてもらうために、とても大切なことです。

中でも特に重要なのは、直属の上司によるサポートで、これは白書にも書かれています。男性の部下から「今度、子どもが生まれます」「妻が妊娠しました」と聞いたら「おめでとう」の次に「あなたはいつからいつまで育休を取るの?」と聞いてあげてください。男性育休を「当たり前」と捉える上司や先輩の態度は、若い世代の男性が安心して制度を利用することにつながります。復帰後は職場を信頼して力を発揮してくれるでしょう。

新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、テレワークをする人が増えています。家庭にいる時間が長くなることで、若い世代ほど家事・育児時間が増えていることが、今回の調査で明らかになったことも、興味深いです。私と同世代の管理職の皆さんには、部下世代が性別を問わず、家事・育児をしている実態を知っていただきたいと思いました。

また、毎年続けている都道府県別の調査については、初めて1位になった沖縄県の取り組み、例年上位の鳥取県の取り組みは、あらためて気になりました。この白書を通じて、企業内で、地域で、男性育休を推進する機運がさらに高まることを願っています。



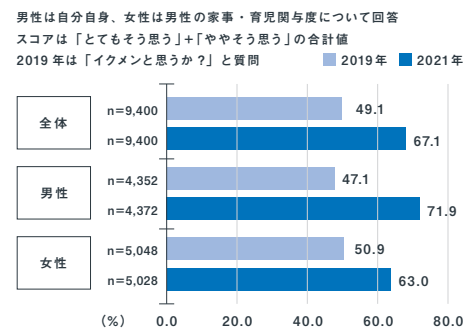
治部れんげ

1997年一橋大学法学部卒、日経BP社にて経済誌記者、2006~07年、ミシガン大学フルブライト客員研究員、2014年よりフリージャーナリスト、2018年、一橋大学経営学修士課程修了。メディア・経営・教育とジェンダーやダイバーシティについて執筆。2021年4月より、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授、内閣府男女共同参画計画実行・監視専門調査会委員、日本政府主催の国際女性会議WAW!国内アドバイザー、東京都男女平等参画審議会委員、豊島区男女共同参画推進会議会長、公益財団法人ジョイセフ理事、UN Women日本事務所、日本経済新聞社等による「アンステレオタイプアライアンス日本支部」アドバイザー、著書に「ジェンダーで見るヒットドラマ：韓国、アメリカ、欧州、日本」(光文社)、「男女格差後進国」の衝撃：無意識のジェンダーバイアスを克服する(小学館)等、2児の母。

4. 男性の家事・育児意識の実態

男性の7割が「家事・育児に積極的に関与している」
女性からみても63.0%が
積極的に関与していると上々の評価に

[図10] 男性は子育てを楽しみ、家事・育児に積極的に関与している

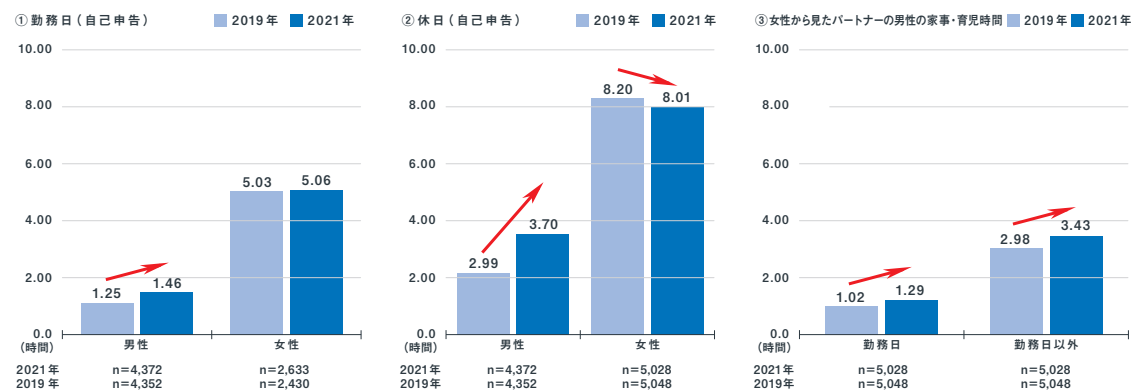


男性には自分自身が、女性にはパートナーの男性が、子育てを楽しみ、家事・育児に積極的に関与するかどうか答えてもらいました。すると男性の7割(71.9%)が「積極的に関与する」と答え、女性(63.0%)が思う以上に家事・育児意識の高い男性は多いようです。2019年は「イクメンと思うか」と聞いたので捉え方がやや異なるかもしれませんが、全体で18ポイント、男性では20ポイント以上も伸びています[図10]。2年前と比べて、男女とも、家事・育児を楽しむ人が増えているようです。

女性の家事・育児時間が依然長いものの一部微減
男性の家事・育児時間は増加傾向

仕事がある日の家事・育児時間を聞くと、男性は1.46時間(87.6分)と2019年より12.6分長くなっていますが、女性はほぼ変わりません。休日は、男性が3.70時間(222.0分)で2019年より42.6分長くなっていますが、女性は8.01時間(480.6分)で約12分短くなっています。また、女性にパートナーの男性の家事・育児時間を聞くと、仕事がある日は1.29時間(77.4分)、休日は3.43時間(205.8分)となり、2019年から増加しています[図11]。家事・育児の時間的な負担は女性の方が依然大きいものの、男性の家事・育児時間は長くなる傾向が見られ、負担差の是正が進んでいるようです。

[図11] 1日の家事・育児時間



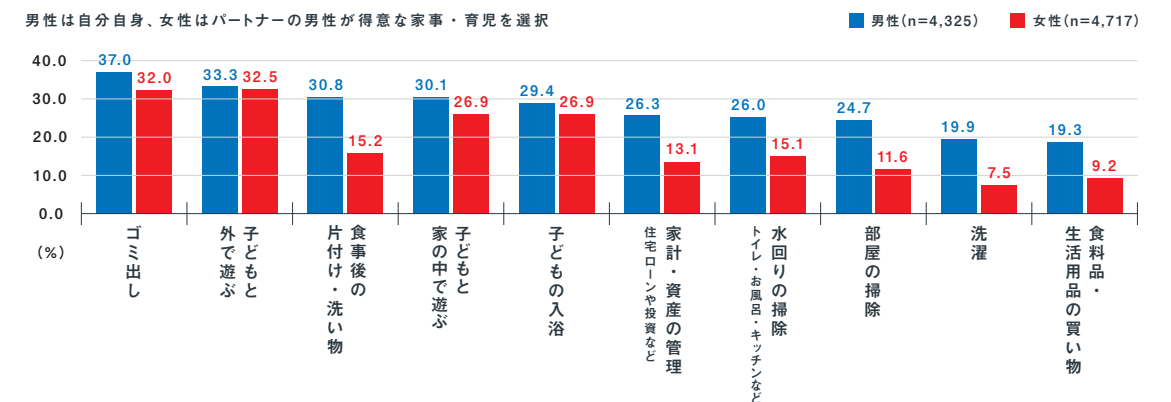
男性が得意な家事・育児、女性との意識にギャップあり

パートナーの男性が得意だと思う家事・育児の内容を、男性には自分自身、女性にはパートナーの男性について答えてもらいました。

すると男性は、「ゴミ出し」(37.0%)、「子どもと外で遊ぶ」(33.3%)、「食事後の片付け・洗い物」(30.8%)、「子どもと家の中で遊ぶ」(30.1%)、「子どもの入浴」(29.4%)の順となりました。一方、女性が男性が得意だと思う家事・育児は、「子どもと外で遊ぶ」(32.5%)、「ゴミ出し」(32.0%)、「子どもと家の中で遊ぶ」、「子どもの入浴」(26.9%)の順となりました[図12-1]。

ゴミ出しや子どもと遊ぶことは男性の得意な家事・育児と自他共に認められるようですが、男性が得意だと思っている「食事後の片付け・洗い物」(30.8%)は、女性のスコアが低く(15.2%)、男性が思うほど得意とは認めていないようです。男女の認識差が大きい家事・育児は、「食事後の片付け」「家計管理」「部屋の掃除」などで、男性はやっているつもりでも女性は認めていない、そんな意識ギャップがあるようです[図12-2]。

[図12-1] 男性が得意な家事・育児



[図12-2] 男性が得意な家事・育児、男性と女性の意識ギャップ

	男性 (n=4,325)	女性 (n=4,717)	男女の意識差
食事後の片付け・洗い物	30.8	15.2	15.5
家計・資産の管理 (住宅ローンや投資など)	26.3	13.1	13.2
部屋の掃除	24.7	11.6	13.1
洗濯	19.9	7.5	12.4
水回りの掃除 (トイレ・お風呂・キッチンなど)	26.0	15.1	10.9
食料品・生活用品の買い物	19.3	9.2	10.1
子どもに勉強を教える、宿題の採点をする	13.4	7.2	6.1
子どもの歯磨き	12.8	7.7	5.1
ゴミ出し	37.0	32.0	5.0
子どもの着替え補助	10.1	5.4	4.7

5. 育休を取得した 男性の声と、女性の声

男性の育休取得で夫婦円満！

「パートナーの女性の負担を理解できるようになった」と 実感する男性、そんな男性の変化を感じる女性

育休を取得した男性の職場復帰後の変化について、男性は自分自身の変化、女性にはパートナーの男性の変化について答えてもらいました。すると男性は「パートナーの女性の負担を理解できるようになった」(37.5%)が最も高く、女性も3割が「パートナーの男性が自分の負担を理解してくれるようになった」(29.4%)と答えています[図13]。

男性の育休取得は、夫婦がお互いに相手を思いやる、そんなやさしい気持ちの醸成にもつながっているようです。

[図13] 育休取得後の男性の変化TOP5
(複数回答)

男性：自分自身の変化 (n=577)		女性：男性の変化 (n=573)	
パートナーの負担を理解できるようになった	37.5	積極的に育児に参加する	36.2
自分の親心が育った	36.2	子どもと一緒に遊ぶ	30.5
子どもと一緒に遊ぶ	36.0	パートナーが自分の負担を理解してくれるようになった	29.4
積極的に育児に参加	29.3	男性の親心が育った	26.7
積極的に家事に参加	27.6	積極的に家事に参加	25.1

(%)

良
か
っ
た
こ
と
男
性
の
育
休
取
得
で

残
念
だ
っ
た
こ
と
男
性
の
育
休
取
得
で

- 夜泣きの声にも起きるようになった(奈良県 35歳)
- 困った時に頼れるので気持ちに余裕(千葉県 38歳)
- 育休後、家事が当たり前になった(愛媛県 38歳)
- 私のポロポロさをよく分かってもらえた(神奈川県 39歳)
- 育児には休みがない事を分かってもらえた(三重県 45歳)
- 私と上の子と2人で過ごしたことでパートナーの男性はやや嫌われていたのが仲良しになっていた(静岡県 47歳)

- ▲ 短い期間しか取得できなかったこと(沖縄県 30歳)
- ▲ 家事はたくさんしてくれたものの、育児はほぼ私で、あまり子どもと関わろうとしてくれなかった(山形県 32歳)
- ▲ 育休中でも会社から何度も呼び出される(福井県 35歳)
- ▲ 気分次第では育児に協力してくれなかったり、頼んだことしかやってもらえなくて負担になった(岐阜県 37歳)
- ▲ 自分で考えて動いてくれないのでイライラ(長崎県 40歳)

育
休
取
得
中
に
幸
せ
に
感
じ
た
こ
と
男
性
の
ホ
ン
ネ

育
休
取
得
中
に
大
変
だ
っ
た
こ
と
男
性
の
ホ
ン
ネ

- 寝返りをできるようになって見せてくれたこと(山口県 29歳)
- 夫婦で過ごせる時間が増えた。100%子どものことを考えられたこと(長崎県 35歳)
- 上の子が生まれたての下の子に「うんちが出たら教えるですよー」って話し掛けていた時(岩手県 39歳)
- 子どもと多く1日を過ごせることやその愛情を感じられたことや、パートナーの女性や家族の大切さを強く感じられたこと(埼玉県 40歳)
- 一日中子どもと一緒にいたので、これまでよりもなついてくれるようになったこと(奈良県 40歳)
- 毎日一緒に昼寝をすることができて幸せ(沖縄県 46歳)
- おいしそうにミルクを飲んでくれて満足そうな顔をした寝顔を見た時(熊本県 57歳)

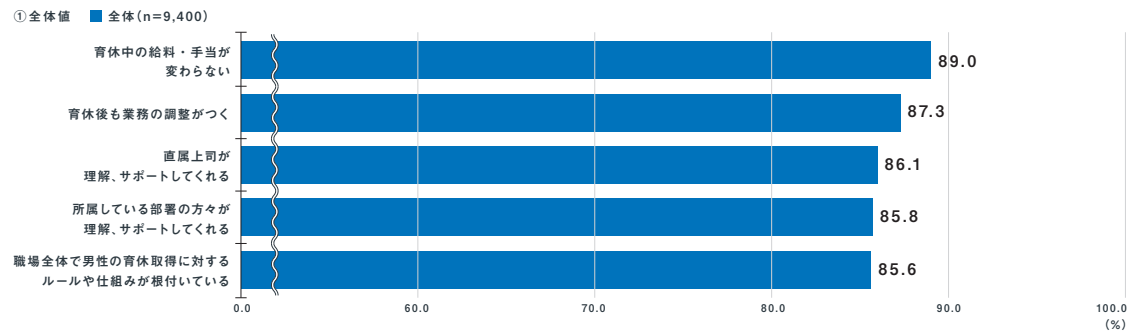
- ▲ 調理の際に、子どもから離れなければならないこと(大分県 30歳)
- ▲ 何ごとも初めてのことで何から手をつけていか分からなかった(神奈川県 33歳)
- ▲ 夜中のオムツ替えがあり睡眠不足(鳥取県 33歳)
- ▲ 2人子どもがいると上の子の面倒を見ながら、それ以外の家事をやらなければいけないと、ストレスをすごく感じた(長野県 36歳)
- ▲ パートナーの女性が入院中に上の子が熱を出し病院に連れて行くことになり保険証の場所も知らないし、いろいろな手続きを知らず苦労しました。家のことを何も知らないと感じ(栃木県 43歳)

6. 男性の育休取得推進に必要なこと

男性の育休取得推進には
「給与保証」「育休後の業務調整」
「職場の理解サポート」が重要

どのようにすれば男性の育休取得が進むか全員に聞いてみました。すると、「育休中の給料・手当が変わらない」(89.0%)、「育休後も業務の調整がつく」(87.3%)、「直属の上司が理解・サポートしてくれる」(86.1%)、「所属している部署の方々が理解・サポートしてくれる」(85.8%)、「職場全体で男性の育休取得に対するルールや仕組みが根付いている」(85.6%)が上位に挙げられました。年代別に見ると、30代~40代はスコアの差こそあれほぼ同様の意見が上位ですが、20代では「パートナーが取得することを望んでくれている」(93.0%)がトップです。共働きがスタンダードの20代、男性も女性もパートナーが望むことが育休取得の前提となっているようです[図14]。

[図14] 男性の育休取得促進に必要なこと (複数回答/スコアは「取得したくなる」+「やや取得したくなる」の合計値)



②年代別 TOP3

20代 (n=732)		30代 (n=4,896)	
パートナーが取得することを望んでくれている	93.0	育休中の給料・手当が変わらない	90.4
直属の上司が理解、サポートしてくれている	92.4	育休後も業務の調整がつく	89.1
所属している部署の方々が理解、サポートしてくれている	91.8	直属の上司が理解、サポートしてくれている	88.1

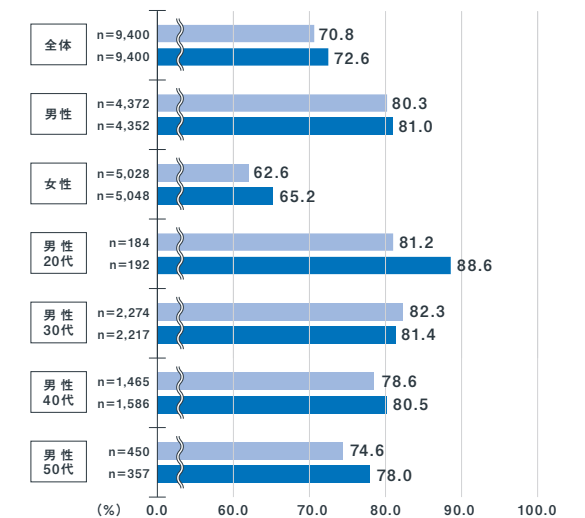
40代 (n=3,220)		50代 (n=552)	
育休中の給料・手当が変わらない	86.9	育休中の給料・手当が変わらない	86.4
育休後も業務の調整がつく	84.4	所属している部署の方々が理解、サポートしてくれている	83.7
直属の上司が理解、サポートしてくれている	82.3	職場全体で男性の育休取得に対するルールや仕組みが根付いている	83.2

7. 男性の家事・育児と幸福度

家事・育児に幸せを感じる男性が増加
20代男性は
9割近くが幸せを実感

男性は家事・育児を行うことに幸せを感じるかどうか、男性には自分自身について、女性にはパートナーの男性について答えてもらいました。すると男性の81.0%が「幸せを感じる」と答え、2019年(80.3%)と比べ幸せを感じる人が増えています。中でも20代男性は88.6%と最も多く、9割近くが家事・育児に幸せを感じています[図15]。

[図15] 男性は家事・育児をすることに幸せを感じているスコアは「幸せを感じる」+「やや幸せを感じる」の合計値

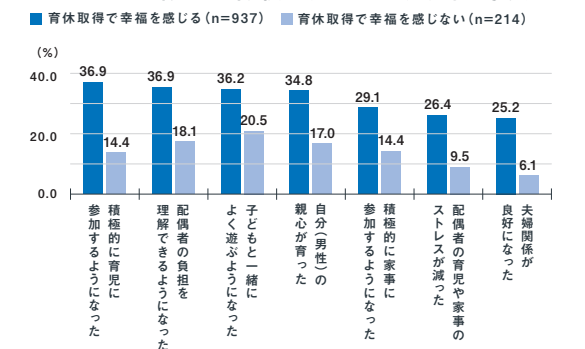


育休を取得して、
家事・育児に幸せを感じる男性と幸せを感じない男性
幸せを感じる男性は、
職場や社会でもポジティブな変化を実感

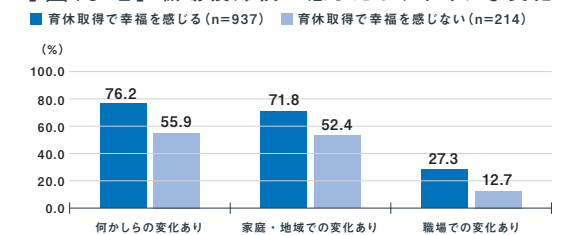
前述図13では、育休を取得した男性の取得後のポジティブな変化を聞きましたが、この変化を育休を取得して家事・育児をすることに幸福を感じる男性と感しない男性とで比較してみました。すると、幸福を感じる男性の方がポジティブな変化のスコアが高く、「積極的に育児に参加する」(幸福36.9% > 感じない14.4%)、「配偶者の負担を理解」(幸福36.9% > 感じない18.1%)、「子どもと一緒に遊ぶ」(幸福36.2% > 感じない20.5%)など、家事・育児により積極的になっていることが分かります[図16-1]。

また、職場でのポジティブな変化を感じる割合は、幸福を感じる男性 27.3%、幸福を感じない男性 12.7%と、家事・育児だけでなく、仕事の面でもポジティブな変化をもたらしていることがうかがえます[図16-2]。

[図16-1] 育休取得後に感じたポジティブな変化



[図16-2] 職場復帰後に感じたポジティブな変化

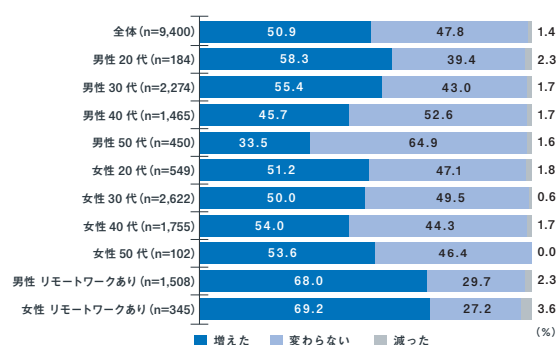


8. 男性の家事・育児とコロナ禍の影響

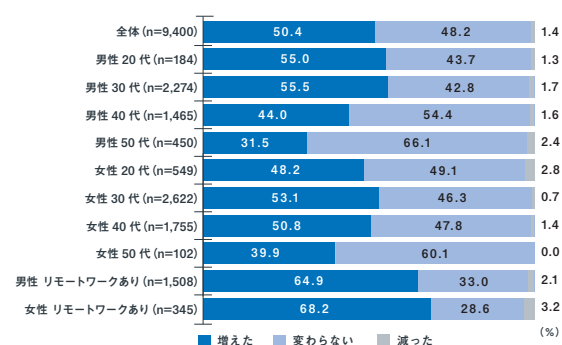
コロナ禍の影響？ 男性の家事・育児時間が微増 20代・30代はより顕著に

[図11]で述べた通り、男性の家事・育児時間が伸長していることがうかがえましたが、改めてコロナ禍による家事時間の変化を聞くと、半数が家事時間が「増えた」(50.9%)と回答しています。特に20代男性(58.3%)、30代男性(55.4%)がより多くなっています。また、リモートワークする人は、男性(68.0%)も女性(69.2%)も家事時間が増えています[図17-1]。育児時間も同様の傾向で、全体の50.4%が育児時間が「増えた」と答え、男性20代(55.0%)・男性30代(55.5%)や、リモートワークする男性(64.9%)・女性(68.2%)の育児時間の増加が顕著です[図17-2]。

[図17-1] コロナ禍による家事時間の変化



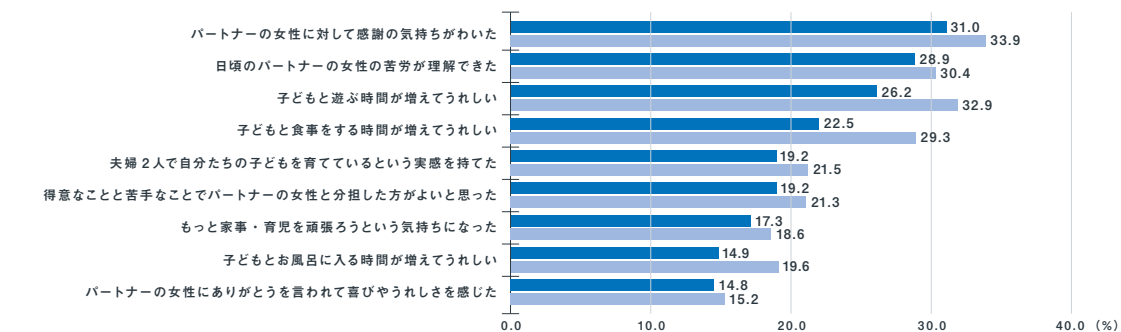
[図17-2] コロナ禍による育児時間の変化



コロナ禍で家事・育児をした男性が一番感じたのは、 「パートナーの女性への感謝の気持ち」

コロナ禍で家事・育児をした男性にその時の気持ちを聞くと、「パートナーの女性に対して感謝の気持ちがあった」(31.0%)、「日頃のパートナー女性の苦勞が理解できた」(28.9%)のスコアが高くなっています。コロナ禍での男性の家事・育児は、パートナーの女性への感謝の気持ちを醸成したようで、リモートワークをした男性ではさらに高くなっています[図18]。

[図18] コロナ禍で家事・育児をしたことによる気持ちの変化



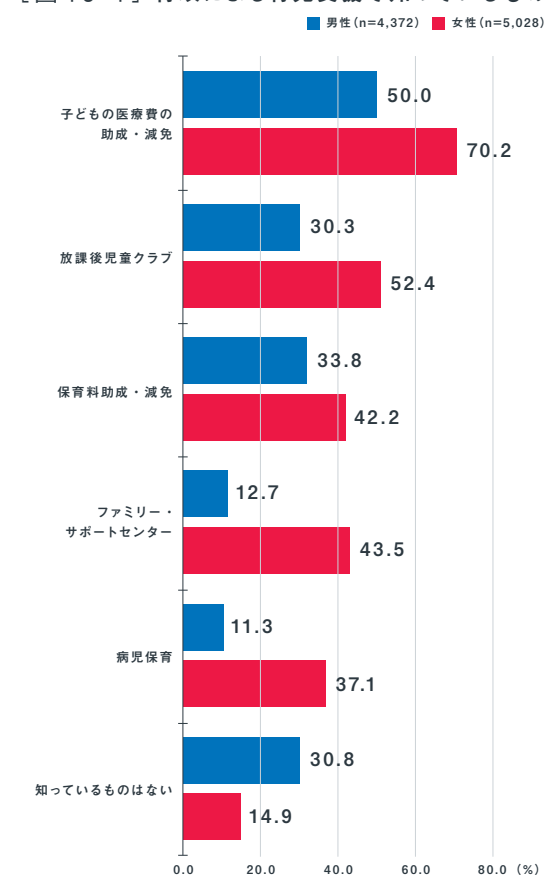
9. 自治体や勤務先の育児支援の 認知と利用実態

行政による子育てサポートを 調べたり利用したりするのは女性任せ？ 男性の3割は「知らない」ままで、4割は「利用したことがない」

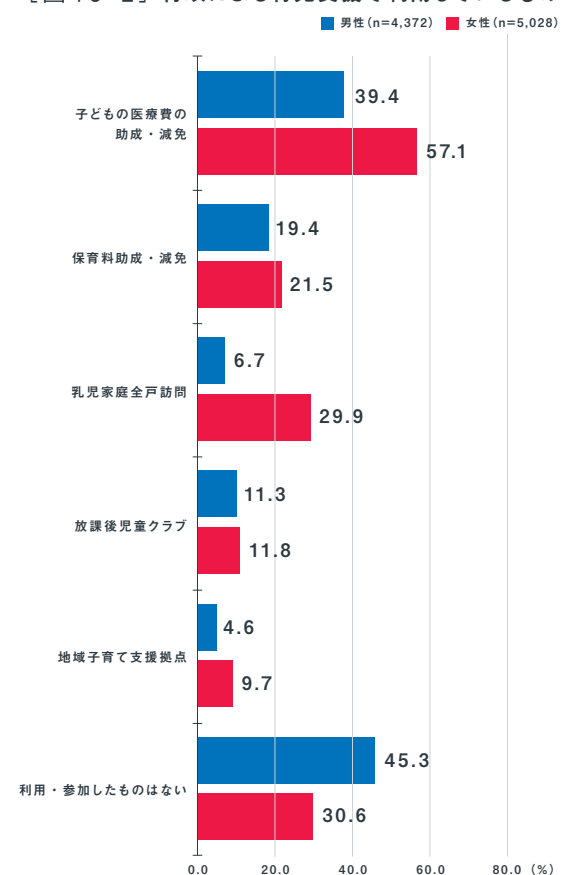
行政による子育てサポートについて知っている制度を聞くと、「子どもの医療費の助成・減免」「放課後児童クラブ」「保育料助成・減免」が上位に挙げられました。いずれも女性の認知度が高く、男性の30.8%は「知っているものはない」と答えています[図19-1]。

また、「子どもの医療費の助成・減免」は女性の57.1%が利用していますが、男性の45.3%は「利用したものはなし」と答えています[図19-2]。せっかくの制度やサービスも、活用されないままのものも少なくないようです。

[図19-1] 行政による育児支援で知っているもの



[図19-2] 行政による育児支援で利用しているもの



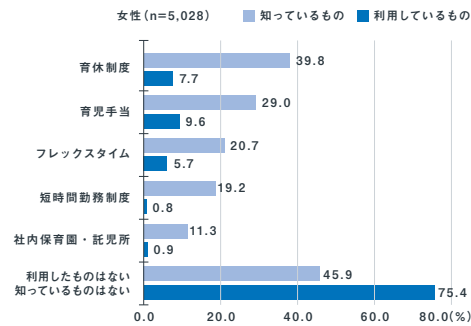
男性の勤務先の育児支援

女性の半数は「知っているものはない」、
4人に3人は「利用したものはない」

男性の勤務先の子育てサポートについて知っているものをパートナーの女性に聞くと、「育休制度」(39.8%)、「育児手当」(29.0%)、「フレックスタイム」(20.7%)が挙げられましたが、45.9%は「知っているものはない」と答えています。

また、これらの制度で利用しているものは、「育児手当」(9.6%)、「育休制度」(7.7%)、「フレックスタイム」(5.7%)といずれも低く、4人に3人は「利用したものはない」(75.4%)と答えました[図20]。

[図20] 女性に聞く、パートナーの男性の勤務先の育児支援

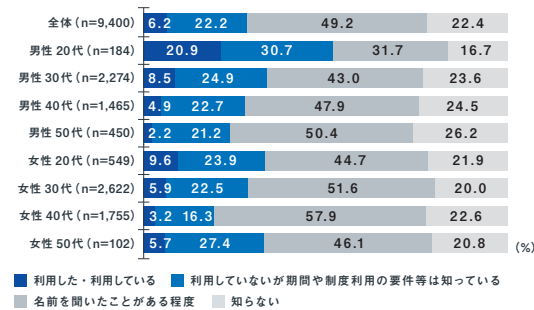


利用率1割未満の男性の育休制度

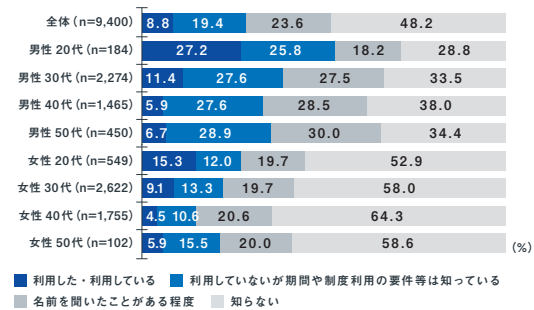
国の制度も勤務先の制度も、
積極的に利用しているのは20代男性

男性の育休(育児・介護休業法に基づく休業制度)に関する国の制度について聞くと、「利用した」6.2%、「利用の要件を知っている」22.2%と、制度を理解しているのは28.4%と3割以下です。しかし、20代男性は20.9%が利用し、30.7%は利用の要件を知り、半数(51.6%)が理解しています[図21-1]。また、自分の勤務先の制度については、理解しているのは28.3%で、半数は「知らない」(48.2%)と答えています。しかし、20代男性は半数以上が理解(53.0%)しています[図21-2]。男性の育休取得は20代男性がリードし、推進役を担ってくれそうです。

[図21-1] 国の男性の育児休業制度



[図21-2] 勤務先の男性の育児休業制度



家事・育児に対するそれぞれの考え方をヒントに

あなたはどっち派？

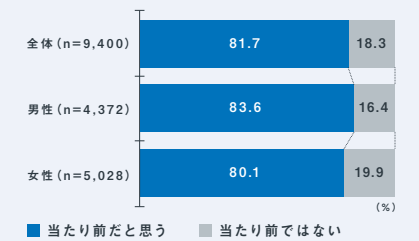
001

男性の家事・育児は、当たり前 or 特別？

男性の家事・育児は当たり前のことかどうかと聞くと、8割は「当たり前」と回答し、女性(80.1%)より男性(83.6%)の方が当たり前意識は高めです。

「きょうはボクが家事・育児を手伝うよ」なんて発言は、時代遅れになっています。家事・育児はお手伝いではなく、当事者意識が大切です。

Q. 男性の家事・育児は当たり前か？

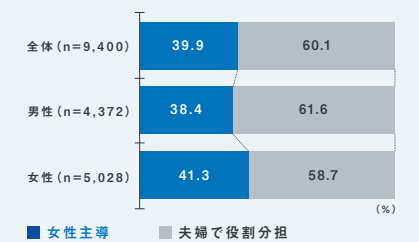


002

効率的な家事・育児は、女性主導 or 夫婦で分担？

効率的な家事・育児は、女性が主導か、夫婦で役割分担かと聞くと、「夫婦で役割分担」という意見が6割(60.1%)と多くなっています。男女別で見ると、女性の方が「女性が主導」という意見がやや多い結果に。不慣れな男性の家事・育児ぶりもどかしいのかもしれませんが、そこはじっくり長い目で。

Q. 効率的な家事・育児は？

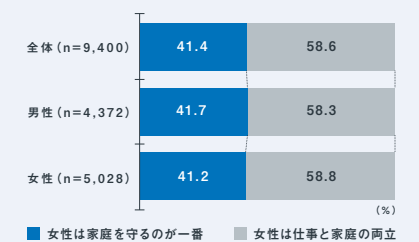


003

女性は、家庭を守る or 仕事と両立？

女性は家庭を守るのが一番か、仕事と家庭の両立かと聞くと、男女ともに4割は家庭、6割が両立という結果になりました。どちらがいいと一概に決めるものではなく、それぞれの家庭で、いろいろな選択肢の中から、自分たちのライフスタイルに合うものを選ぶ、というのが理想的のようです。

Q. 女性は家庭か、仕事と両立か？

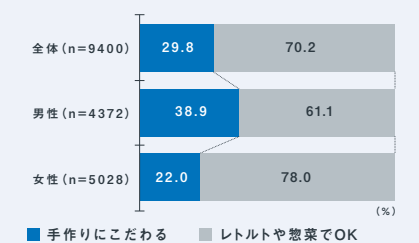


004

料理は、手作りにこだわる or レトルトやお惣菜もOK？

普段、料理をするときについて聞くと、女性は8割が「レトルトや買ってきたお惣菜もOK」(78.0%)と答えています。男性の4割は「手作りにこだわる」(38.9%)と答えています。男性の家事・育児が当たり前の時代、パートナーの手料理頻度も高まり、「おふくろの味」ならぬ、「おやじの味」が一般化するかもしれませんね。

Q. ふだんの料理は？



10. 積水ハウスの特別育児休業を取得した 男性社員とそのパートナーの女性に聞く

積水ハウス社員の「男性育休白書 2021」

3歳未満の子どもがいる全男性社員対象に、1カ月以上の育休完全取得を目指す積水ハウスの特別育児休業制度

「キッズ・ファースト企業」として子育てを応援する社会を先導する当社では、ダイバーシティ推進の取り組みを一層加速させるため、2018年9月より「男性社員1ヶ月以上の育休完全取得」（特別育児休業制度）を推進しています。3歳未満の子どもを持つすべての社員が対象となり、子どもの誕生から3歳に達する日の前日までに1カ月以上の育児休業を取得するもので、最初の1カ月は有給とし、家庭の事情や業務との調整を図りやすいよう、分割での取得も可能です。さらに、2021年4月から、配偶者の産後8週間以内は1日単位で自由に取れるように変更し、より柔軟に使える「男性育休」として進化しています。

特別育児休業を取得した積水ハウス社員の 「男性の家事・育児力」 全国1位をほぼ上回る結果に

特別育児休業を取得した男性社員と、パートナーの女性を対象に、「男性の家事・育児力」調査を行いました。その結果、積水ハウス社員は、ほぼすべての項目で全国1位となった都道府県のポイントを上回り、家事・育児を積極的に楽しみ、幸福を感じていることがうかがえる結果となりました[図22]。

[図22] 積水ハウス社員の男性の家事・育児力調査（全国TOP3との比較）

部門別TOP3	男性が行う家事・育児の数		男性の家事・育児関与度		育休取得日数		男性の家事・育児時間		家事・育児幸福度	
	数	関与度	日数	時間	幸福度					
積水ハウス	14.0	1.11	31.0	16.3	1.65					
1	岩手県 8.2	岩手県 0.72	奈良県 11.3	沖縄県 17.1	福岡県 1.16					
2	島根県 8.1	長野県 0.69	長野県 7.8	福井県 16.7	沖縄県 1.15					
3	鳥取県 7.7	沖縄県 0.63	埼玉県 6.5	長崎県 16.5	山梨県 1.15					
全国平均	6.3個	0.39	3.7日	13.3時間	0.92					

特別育児休業取得者調査

[図22～図25]

*実施時期：2021年5月～6月 *調査方法：インターネット調査

*調査対象：2020年6月～2021年4月に、特別育児休業を取得完了した男性社員とパートナー女性

*回答数：積水ハウス男性社員151人、パートナー女性76人

[図26]

*実施時期：2020年8月～2021年7月に特別育児休業システムに登録された回答データ

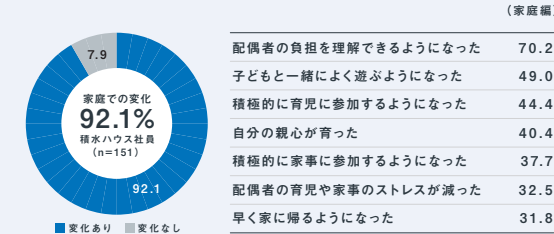
*回答数：積水ハウスの男性社員305人、パートナー女性229人

特別育児休業取得後、 仕事に復帰した積水ハウス男性社員の変化 家庭でも職場でも、ポジティブな変化を実感

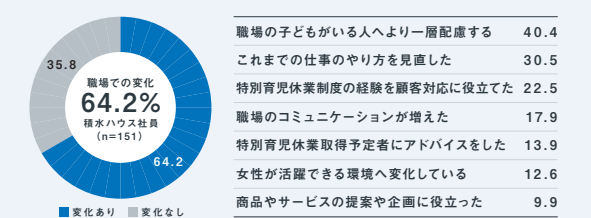
特別育児休業取得後のポジティブな変化を聞くと、最も大きな変化が「配偶者の負担を理解できるようになった」(70.2%)で7割の社員が実感しています。また、4割が「積極的に育児に参加するようになった」(44.4%)、「自分の親心が育った」(40.4%)と答え、父親としての自覚を促す機会にもなっています。このような「家庭・地域でのポジティブな変化」を感じたのは、全体の92.1%にも上ります[図23-1]。

さらに、「職場の子どもがいる人へより一層配慮するようになった」(40.4%)、「これまでの仕事のやり方を見直した」(30.5%)、「特別育児休業の経験を顧客対応に役立てることができた」(22.5%)など「職場でのポジティブな変化」(64.2%)を感じた人も6割を上回っています[図23-2]。特別育児休業制度は、社員の家事・育児への積極参加を促すとともに、仕事の面でもプラスの波及効果が生まれているようです。

[図23-1] 特別育児休業取得後のポジティブな変化（家庭編）



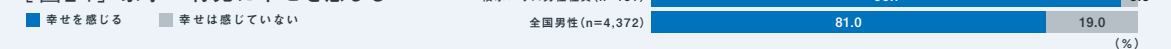
[図23-2] 特別育児休業取得後のポジティブな変化（職場編）



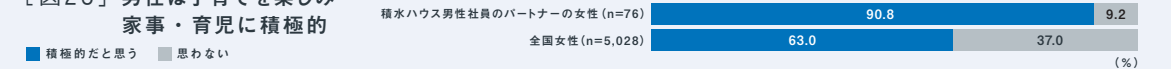
特別育児休業を取得した男性社員もパートナーの女性も、 約98%が「良かった」と高評価

特別育児休業を取得した男性社員の96.7%とほぼ全員が「家事・育児に幸せを感じる」と答え[図24]、パートナーの女性の90.8%が「男性は家事・育児に積極的」と認めており[図25]、今回調査の全国平均を大きく上回っています。当社の特別育児休業制度についての評価を聞くと、男性社員(98.4%)もパートナーの男性(97.8%)もほぼ全員が「良かった」と答えました[図26]。

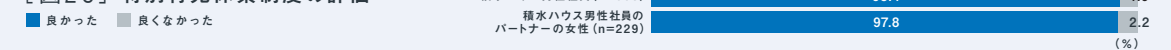
[図24] 家事・育児に幸せを感じる



[図25] 男性は子育てを楽しみ家事・育児に積極的



[図26] 特別育児休業制度の評価





積水ハウス株式会社

本社 / 〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番88号 梅田スカイビル
www.sekisuishouse.co.jp